

市原市認知症対策連絡協議会 第35回 例会 (2023年度)

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 日時  | 2024年1月25日(木) 18:30~20:45 |
| 場所  | 五井公民館 会議室1・2              |
| 出席者 | 29名                       |
| 司会  | 飯吉                        |

1. 開会のあいさつ

市原市認知症対策連絡協議会 会長 小沢義典医師 (千葉ろうさい病院)

2. 「レカネマブについて」 市原市認知症対策連絡協議会 会長 小沢先生

- ・認知症の約60~70%がアルツハイマー型認知症
- ・アミロイドβが脳に蓄積し、その後に認知機能障害が出ると言われている(蓄積は十数年前から)
- ・アミロイドβをどうにかすれば、問題は解決につながるのではという研究が続けられてきた
- ・レカネマブはアルツハイマー病の原因に対する初めての抗体治療薬
- ・これまで全く手立てがなかったので、非常に期待が高まる
- ・抗体治療薬のため、薬価は非常に高い
- ・対象は、アルツハイマー病による軽度認知障害または軽度認知症
- ・治療方法は、2週間に1回の点滴で投与期間は原則1年6か月
- ・てんかん発作やイライラなどの副作用があらわれることがある
- ・使用できる施設にも条件があり、市原市内で扱えるのは千葉ろうさい病院だけ
- ・保険適用なので、高額医療費制度を利用できる

<会場から質問>

- ・千葉大学の医師はアミロイド仮説ではなく、脳の炎症に課題があると言っているがどのように考えるか
- ・ドナネマブとは違うのか
- ・薬の治療が終わって1年半で脳が腫れる現象は減っていくのか
- ・認知症は複合的な理由で起こると考えるが、最近メディアで得た情報の一つに、高血圧が増えると血圧を下げるための薬を投与され、それが認知症の原因に影響しているのではという話がある
- ・他の製薬会社も実施したがうまくいかなかった。なぜ今回は成功したのか

3. 「いちほら認知症あんしんフェスタ」と「RUN 伴+いちほら」の報告

<決算報告> 福田卓美施設長(特別養護老人ホーム グランモア和光苑)

- ・収入579,000円 支出483,601円 予備費95,399円
- ・RUN 伴+基金(100円×参加者数)、市認協基金および市高齢協基金(全体の3%)を運営資金として活用
- ・運営資金を除いた残金は次回のイベントの開催費用に活用する
- ・来年度は今年度購入していただいた「市原市オリジナルのオレンジTシャツ」を使用できるようにすることで、オレンジTシャツの購入費用の負担なく参加できるようにしていきたい。  
(『RUN 伴+』だと市認協の自主開催という形式になるので毎年のTシャツ購入を不要にできる)
- ・『RUN 伴+』も『いちほら認知症あんしんフェスタ』も市認協のイベントとして継続開催していくための資金調達に活用することにご理解をいただきたい

<振り返り> 飯吉裕樹事務局長(介護老人保健施設なんな苑)

□RUN 伴+いちほら

- ・参加者 98 名、ボランティアスタッフ 51 名が参加
- ・準備期間が短いなか、約 100 名参加出来たことは評価できる

□いちほら認知症あんしんフェスタ

- ・参加者 197 名、ボランティアスタッフ 97 名が参加
- ・相談ブース/振り返り
  - 歯科相談 13~14 件/セカンドオピニオン希望者が多かった
  - リハビリ相談 5 件(来訪者役 18 名)/嚥下相談があり ST が対応した
  - 便利グッズ 7 件/立ち止まる人が少なかったためわかりやすい看板を設置する等の工夫
  - 認知症相談 5 件(9 名)/MCI スクリーニング検査を受けた若い方の相談があった
  - 地域包括支援センター相談 4 件/ケアマネージャーのいる方を包括で対応していくことになった

□全体

- ・同時に実施できてよかった
- ・準備期間が 8 月身体と短く厳しく感じた
- ・ポスターをもう少し早く制作し、掲示する場所を広げられるとよかった
- ・(フェスタ)当日遠巻きに見ている人もいたので、声掛けが必要
- ・オレンジの T シャツを着ていないと参加できないと誤解している人もいた

<会場からご意見>

- ・市民にあまり知られていないと感じた。事前の宣伝が大切。シティライフに載せる・ポスターを広く掲示する等できるとよい。
- ・市原市認知症対策連絡協議会を知っている人が少ない(もっと広報活動が必要では)

4. 「イチ推し」「エンディングノートの更新」「認知症ケアパスの更新」市原市役所 共生社会推進課 小原氏

- ・「イチ推し」のチラシ配布
- ・「私の未来設計図：エンディングノート」「認知症ケアパス」が更新を迎えるので、改定する可能性が高い。市認協で意見を聞きたい。
- ・研修のお知らせ
  - 2 月 9 日多職種連携研修「看取り介護(ターミナルケア)の実践～特別養護老人ホームで 400 名をみつめている経験談～」
  - 3 月 9 日市原市在宅医療・介護連携推進講演会「終活について考えてみませんか？」

5. グループワークおよび発表

A 若年性認知症対策プロジェクト

- ・市認協としてどんなことからできるかということから考えた
- ・市原市内にどれくらいの対象者がいるのかがわかる情報があればよい
- ・介護保険制度を知らず苦勞している人もいるのではと思う
- ・身体は若いということや仕事をする上での苦勞があるという話を聞いたことがある
- ・映画(1 時間 52 分)の上映やチラシの作成・配布をすることで、若年性認知症について周知し、介護している人との共感や制度を伝えることができるとよい

B エンディングノート、認知症ケアパス更新プロジェクト

- ・認知症の方がかけるのか？チェックボックスだとよいかも？PC 上で作れるとよい？などの意見が出た
- ・ご家族の意見も聞けるとよい
- ・改訂には時間がかかるため、今後様々な場で意見をいただき考えていきたい

### C 新規プロジェクト検討プロジェクト

- ・遠隔でも相談が受けられるようなサービスを作った「オンライン離れた親を持つ子供の相談会」
  - ・公共放送で高血圧の治療アプリができ、保険診療になったという情報をみた
- 今後一人暮らしの人が増える。「独居の認知症の人が家で楽に死ぬる」というような新しいアプリを作りたい 本人が適切な時期に適切な対処がうけられることを選べるアプリだ
- ・エンディングノートを認知症の人が書けるのかという話があるが、書ける時期や適切な時期に書くことを薦めたい。エンディングノートに二次元コードを付けて繋がるようにするとか
  - ・薬のアプリなどや、もの忘れの対処法を、本人の認知機能の程度やタイミングに合わせてそういったアプリをお勧めしていけるとよい(提案型)

### D フェスタプロジェクト

- ・準備期間が短かったという反省がある
- ・市民がよく見ている「広報いちほら」へ情報を載せられるとよいが、締め切りが早いので、間に合うように準備していけるとよい
- ・アリオ市原の屋外で行った太鼓は音が大きすぎ店舗からクレームが届いた  
(次回以降再考が必要→RUN伴+の会場はどうか)
- ・市原警察のブースは参加者が多く、内容も楽しめるものだった。継続して依頼していきたい
- ・広報に関して：各ブースで認知症に直接関係のない参加者も多くいた。参加して楽しんで終わりではなく、市認協について紹介できるようなチラシをお渡しできれば効果があると思う
- ・現在あるチラシにQRコードを載せるなどのアップデートもできるとよい
- ・若い方には声掛けが難しかったが、風船が子供に人気で追加で購入したほど。次回は、風船やティッシュ等の付加価値により手に取ってもらいやすくして、そこに市認協を周知できるような工夫(風船に印刷やテプラを張り付ける等)をしたい
- ・フェスタとRUN伴+の同時開催にはメリット/デメリットがあるが、一緒に行うことが大きなイベントとして開催することができた。今後どうしていくかについては早期に決定したい。

### E 「RUN 伴+いちほら」プロジェクト

- ・RUN 伴+は走ることが主ではなく、認知症の方と参加することに意義がある
- ・来年度も経験を活かして、上総更級公園でできるとよい。駐車場の問題もクリアできた。
- ・早い時期に日程を決定し、宣伝に時間を使いたい
- ・開催は9月～11月がよいか？同日開催か否か？
- ・フェスタを土曜日、RUN 伴+を次の日曜日という案もだが、2週連続はどうか…という意見もある
- ・提案としては、フェスタを9月の前半に実施して、RUN 伴+はいずれかの日曜日かどうか
- ・市内の他のイベントと被らないように設定したい (素案) ①10/27、②11/10、③11/17の日曜日

### F ステッカープロジェクト

- ・プロジェクトの趣旨は、市内で気軽に市民が認知症について相談できる場所を増やしたいというもの
- ・包括や認知症疾患センター等に繋がりやすくするためのステッカー
- ・新型コロナ感染症が流行する前までに、デザインはできているが、ゾウの絵やRUN 伴+のロボのイラストを入れるのも考えたい。QRコードを載せて市認協のHPに繋がるようにするのも方法か。知人のデザイナーに相談をしてみる(キャラバンメイトのゾウは要相談/市認協のキャラクター作る?)
- ・予算は協議会で相談したい

### G 困りごと相談会

- ・医者について
- ・訪問看護の人員が足りない

- ・最低賃金が変わっているが診療報酬は変わらない
- ・ケアマネージャーの処遇改善が考慮されない
- ・利用者が事故等で入院をしたときに、ケアマネージャーが多くの対応を求められる。時間もかかる。ケアマネージャーの仕事とはどこまでなのか。入院時の支援費は 4,000 円。

#### 7. 閉会のあいさつ

市原市認知症対策連絡協議会 副会長 永野伸一医師(市原市歯科医師会、永野歯科医院)